

K120.41

64a

3

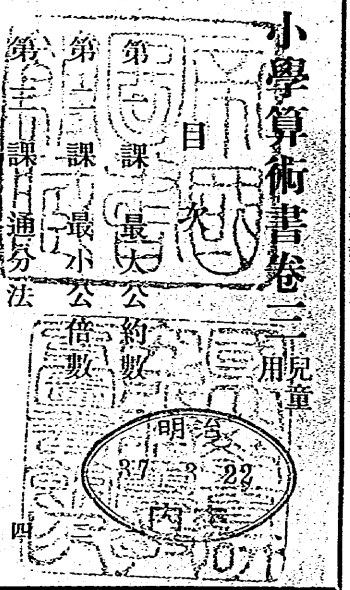
福岡縣教育會編纂

高等科

# 小學算術書

兒童用

福岡縣教育會



第十三課	單比例雜題	四七
第十二課	反比例	四三
第十一課	正比例	四〇
第十課	雜題	三三
第九課	繁分數	二九
第八課	同除法	二二
第七課	同乘法	一四
第六課	同加減混題	一一
第五課	同減法	九
第四課	分數加法	六
第三課	通分法	四

目次

第十四課	複比例	五四
第十五課	比例配分	六五
第十六課	歩合算	七三
第十七課	總練習	

# 目次終

## 小學算術書卷三 兒童用

福岡縣教育會編

### 第一課 最大公約數

第一例題 (二數)

18 と 54 の最大公約數を求

む。

2	18	54	
3	9	27	
3	3	9	
3	1	3	
			$2 \times 3 \times 3 = 18$

次の數の最大公約數を求めよ。

- (1) 36 24      (2) 180 225
- (3) 105 63    (4) 126 210
- (5) 210 525    (6) 126 189
- (7) 504 630    (8) 108 252

(9) 450 540 (10) 112 336

第二例題 (二數以上)

45と60と90との最大公約數

を求め。

3	45	60	90		$3 \times 5 = 15$
5	15	20	30		
3	4	6			

- |      |     |     |      |     |
|------|-----|-----|------|-----|
| (11) | 36  | 54  | 90   |     |
| (12) | 63  | 84  | 147  |     |
| (13) | 60  | 90  | 120  | 150 |
| (14) | 126 | 84  | 294  |     |
| (15) | 70  | 105 | 175  | 140 |
| (16) | 210 | 315 | 420  |     |
| (17) | 294 | 210 | 154  |     |
| (18) | 726 | 924 | 1122 |     |

## 第二課 最小公倍数

第一例題

12と18との最小公倍数を求め。

12	18	
2	9	$2 \times 3 \times 2 \times 3 = 36$
3	3	

第二例題

6と8と12と18との最大公約數を求め。

9	8	12	18	
3	3	4	6	$3 \times 2 \times 2 \times 3 \times 2 = 72$
2	3	4	2	
2	3	2	1	
3	1	2	1	

- |     |    |    |    |  |
|-----|----|----|----|--|
| (1) | 36 | 54 | 90 |  |
| (2) | 36 | 24 | 48 |  |
| (3) | 45 | 30 | 60 |  |
| (4) | 42 | 63 | 84 |  |
| (5) | 84 | 36 | 24 |  |

- |      |    |    |     |
|------|----|----|-----|
| (6)  | 66 | 33 | 99  |
| (7)  | 12 | 15 | 24  |
| (8)  | 25 | 12 | 20  |
| (9)  | 12 | 28 | 21  |
| (10) | 23 | 46 | 253 |
|      |    |    | 44  |

### 第三課 通分

#### 第一例題

$\frac{5}{7}$  と  $\frac{2}{5}$  とを通分せよ。

$7 \times 5 = 35$  新分母

$35 \div 7 \times 5 = 25$  第一新分子

$35 \div 5 \times 2 = 14$  第二新分子

$$\frac{5}{7} = \frac{25}{35} \quad \frac{2}{5} = \frac{14}{35}$$

次の分數を通分せよ。

- (1)  $\frac{5}{7}$     $\frac{3}{5}$    (2)  $\frac{3}{8}$     $\frac{5}{7}$

- (3)  $\frac{5}{11}$     $\frac{3}{7}$    (4)  $\frac{7}{13}$     $\frac{9}{11}$   
 (5)  $\frac{5}{9}$     $\frac{5}{8}$    (6)  $\frac{2}{7}$     $\frac{7}{12}$

#### 第二例題

$\frac{13}{14}$  と  $\frac{7}{18}$  とを通分するには。

14 と 18 との最小公倍數を求

めよ。 126

$126 \div 14 \times 13 = 117$  第一新分子

$126 \div 18 \times 7 = 49$  第二新分子

$$\frac{13}{14} = \frac{117}{126} \quad \frac{7}{18} = \frac{49}{126}$$

又は

126	117	49	126	新分母
$\frac{13}{14}$	$\frac{9}{14}$	$\frac{7}{18}$	117	第一新分子
			49	第二新分子

次の分數を通分せよ。

- |                      |                 |                     |                 |                 |
|----------------------|-----------------|---------------------|-----------------|-----------------|
| (7) $\frac{5}{6}$    | $\frac{7}{8}$   | (8) $\frac{4}{15}$  | $\frac{3}{5}$   | $\frac{5}{7}$   |
| (9) $\frac{11}{12}$  | $\frac{7}{15}$  | (10) $\frac{5}{14}$ | $\frac{8}{21}$  | $\frac{9}{14}$  |
| (11) $\frac{3}{5}$   | $\frac{1}{7}$   | (12) $\frac{5}{21}$ | $\frac{9}{14}$  | $\frac{5}{12}$  |
| (13) $\frac{7}{24}$  | $\frac{3}{16}$  | (14) $\frac{5}{24}$ | $\frac{7}{36}$  | $\frac{5}{12}$  |
| (15) $\frac{4}{27}$  | $\frac{11}{36}$ | (16) $\frac{4}{21}$ | $\frac{5}{28}$  | $\frac{3}{14}$  |
| (17) $\frac{13}{42}$ | $\frac{11}{21}$ | (18) $\frac{7}{18}$ | $\frac{5}{6}$   | $\frac{2}{3}$   |
| (19) $\frac{13}{14}$ | $\frac{19}{42}$ | (20) $\frac{7}{12}$ | $\frac{17}{36}$ | $\frac{11}{48}$ |

### 第四課 分數加法

例題

$$\frac{3}{8} + \frac{5}{12} = \frac{19}{24}$$

通分すれば  $\frac{3}{8} = \frac{9}{24}$   $\frac{5}{12} = \frac{10}{24}$

同分母の分數  $\frac{9}{24} + \frac{10}{24} = \frac{19}{24}$

又は

$$\begin{array}{r} 24 \\ \hline 6 \quad 10 \\ 3 \quad 19 \\ \hline 3 \quad 2 \\ \hline 19 \\ \hline \end{array} \quad \text{答} \quad \frac{19}{24}$$

- |  |  |
|--|--|
| (1) $\frac{2}{5} + \frac{2}{3}$                              | (2) $\frac{5}{8} + \frac{7}{12}$                 |
| (3) $\frac{5}{6} + \frac{3}{4}$                              | (4) $\frac{7}{12} + \frac{5}{6}$                 |
| (5) $\frac{4}{15} + \frac{5}{9}$                             | (6) $\frac{13}{21} + \frac{9}{14}$               |
| (7) $\frac{7}{24} + \frac{13}{32} + \frac{5}{12}$            | (8) $\frac{8}{21} + \frac{11}{14} + \frac{3}{7}$ |
| (9) $\frac{2}{8} + \frac{5}{4} + \frac{4}{9} + \frac{12}{6}$ |  |
| (10) $1\frac{5}{32} + 3\frac{7}{24} + 11\frac{5}{8}$         |  |

(11)  $\frac{3}{7} + \frac{5}{21} + \frac{4}{9} + \frac{5}{6} + \frac{12}{6}$

(12)  $12\frac{7}{45} + 10\frac{11}{30} + \frac{7}{15}$

(13) 拾貳錢五分の三の墨と、四錢二分の一の紙と、參錢二分の一の筆とを買はゞ代金何程。

(14) 人あり。文具店に五拾四錢貳分の一を拂ひ、洋物店に壹圓五拾貳錢五分の一を拂ひしに、殘金貳圓五錢五分の三となれり、始め、何程を所持せしか。

(15) 讀本を復習するに、初日は五枚十二分の七、二日目には四枚十分の三、三日目には三枚二十四

分の十一を讀めり。初めより何程復習せしか。

### 第五課 分數減法

例題

$$\frac{8}{9} - \frac{5}{6} = \frac{1}{18}$$

通分すれば  $\frac{8}{9} = \frac{16}{18}$      $\frac{5}{6} = \frac{15}{18}$

同分母の分數  $\frac{16}{18} - \frac{15}{18} = \frac{1}{18}$

又は

$$\begin{array}{r} 18 \phantom{00} \\ \frac{16}{9} \\ \underline{\phantom{16} 3} \\ 15 \\ \phantom{15} 1 \end{array} \quad \text{答} \quad \frac{1}{18}$$

(1)  $\frac{3}{5} - \frac{2}{7}$

(2)  $\frac{5}{7} - \frac{4}{9}$

(3)  $\frac{6}{13} - \frac{11}{26}$

(4)  $\frac{13}{24} - \frac{3}{8}$

(5)  $\frac{13}{14} - \frac{8}{21}$

(6)  $\frac{23}{64} - \frac{3}{16}$

(7)  $\frac{53}{81} - \frac{13}{27}$

(8)  $\frac{20}{28} - \frac{15}{21} + \frac{4}{21}$

(9)  $17\frac{23}{34} - 9\frac{5}{17}$

(10)  $27\frac{31}{42} - 23\frac{5}{12}$

(11)  $7 - 5\frac{6}{19}$

(12)  $12 - 10\frac{7}{12}$

(13)  $13 - 5\frac{1}{2} - 2\frac{5}{14}$

(14) 食米五斗八升四分の三の内、貳斗五升五分の二を食ふときは、  
残米何程。

(15) 所持金五圓八分の七の内、參圓四分の一を費さば、残金何程。

(16) 晝間十時十五分の七のときは、  
夜間は何時間なるか。

(17) 睡眠時間を九時十五分の三とすれば、起きて居る時間何程。

(18) 甲兒童の體重は三十九匁五分の三、乙兒童の體重は三十五匁八分の三なり、甲乙二兒童の體重の差何程。

### 第六課 加減混題

(1)  $\frac{3}{5} + \frac{3}{10} - \frac{1}{4}$       (2)  $5 - 2\frac{1}{6} + 3\frac{7}{12}$

(3)  $7 + 3\frac{2}{5} - 8\frac{4}{15}$       (4)  $15 + 7\frac{2}{3} - 2\frac{3}{14} + 5\frac{5}{21}$

(5)  $9\frac{3}{17} + \frac{15}{34} - 5\frac{13}{34}$

(6) 我東京は、英國より東經百三十九度四分の三に當り、臺灣の膨



湖島は東經百十九度三分の一に當る。東京より澎湖島までは何程。

(7) 我國にて最南端は北緯二十一度四分の三にして、臺灣の南岬に當る。最北端は千島諸島の北にして、北緯五十度十五分の十に當る。南北兩端間は何程。

(8) 韓帝國の面積は、壹萬參千四百方里八分の五、我國本島の面積は壹萬四千五百七拾壹方里十二分の三なり。其差何程。

(9) 長崎より元山津までは四百六十裡なり。長崎より甲船は元山

津に向ひて進航すること百二十四裡十三分の五、乙船は元山津を發して長崎に向ひ進行すること百三十七裡十一分の七なるときは、兩船相隔つること何程。

(10) 日清戦争のとき、九ヶ月間の平均患者と死者との人数は、負傷者が一ヶ月三百三十四人三分の一に當り、死者はそれより百二十二人九分の八多く、病者は負傷者と死者との合計より、更に五千百九十三人九分の五多かりしと、各一ヶ月何程に當る

か。  
 (11) 當時陸軍恤兵部に集まりし金は、貳百拾八萬八千八百八拾四圓二十分の七、海軍恤兵部に集まりし金は、五十七萬八千百七十二圓五十分の十三なりしと、其差何程。

### 第七課 分數乘法

#### 第一例題

(整數を分數倍する法)

九圓拾錢の十三分の七は何程。

$$\begin{aligned} & 70 \frac{7}{10} \\ & 910 \times \frac{7}{10} = 490 \quad \text{答四圓九拾錢} \end{aligned}$$

(1)  $455 \times \frac{7}{15}$

(2)  $144 \times \frac{5}{24}$

(3)  $108 \times \frac{7}{18}$

(4)  $125 \times \frac{17}{35}$

(5) 楊子江はその長さ千三百里の内、五分の二は舟を通すべしといふ。航路何程。

(6) 世界全陸地の面積は八百八十八萬方里にして、亞細亞は其三分の一に當ると云ふ。亞細亞の面積何程。

(7) 蠶の掃立より上簇までは三十四日を要す。其日數の十七分の四が雨天なれば晴天は何日か。  
 (8) 繭一升を絲に製して賣らば四

拾五錢六厘となり、繭のまゝなれば其六分の一だけ安しといふ。繭一升の價何程。

第二例題

(分數を分數倍する法)

$$\frac{3}{8} \times \frac{4}{9} = \frac{1}{6} \quad \frac{1}{8} \times \frac{4}{9} = \frac{1}{6} \quad \text{答 } \frac{1}{9}$$

(9)  $\frac{2}{13} \times \frac{26}{35}$  (10)  $\frac{5}{11} \times \frac{22}{27} \times \frac{3}{20}$

(11)  $\frac{3}{17} \times \frac{4}{21} \times \frac{7}{12}$  (12)  $\frac{8}{27} \times \frac{9}{16} \times \frac{2}{15}$

(13)  $\frac{5}{16} \times \frac{14}{33} \times \frac{11}{21}$  (14)  $\frac{12}{45} \times \frac{7}{24} \times \frac{14}{15}$

(15)  $\frac{8}{9} \times \frac{13}{16} \times \frac{15}{26}$  (16)  $\frac{5}{81} \times \frac{12}{25} \times \frac{45}{46}$

第三例題

(混分數に分數を乗する法)

$$\frac{3}{9} \times \frac{3}{4} = \frac{211}{12}$$

$$\frac{3}{9} \times \frac{3}{4} = \frac{35}{8} \times \frac{3}{4} = \frac{35}{12} = \frac{211}{12}$$

(16)  $12\frac{7}{8} \times \frac{3}{4}$  (17)  $25\frac{5}{12} \times \frac{7}{8}$

(18)  $9\frac{4}{15} \times \frac{3}{5}$  (19)  $56\frac{5}{14} \times \frac{7}{7}$

(20)  $34\frac{5}{6} \times \frac{7}{12}$  (21)  $14\frac{7}{15} \times \frac{5}{6}$

(22) 養蠶家が絲繰り女二人を雇ふとき、一人の賃錢は參拾五錢五分の一にして、一人は其八分の五なりと、其賃錢は何程。

(24) 春蠶が掃立より上簇まで三十日四分の一かゝるとき、夏蠶は其五分の四にて上簇す。夏蠶

は何日間にて上簇するか。

- (24) 黄楊を産するを以て有名なる古處山は、秋月町より登る路程三十町五分の二なるが、海面よりの高さは其四分の一に當る海面より何程の山なるか。

- (25) 縣下第一の高山彦山は、字落合より頂上まで貳里九分の一なりと。或人その五分の三だけ登りて休憩せり、尙何程登らば山頂に達するか。

第四例題

(混分數に混分數を乗する

法)

$$5\frac{2}{3} \times 2\frac{13}{34} = 13\frac{1}{2}$$

$$5\frac{2}{3} \times 2\frac{13}{34} = \frac{17}{3} \times \frac{81}{34} = \frac{27}{2} = 13\frac{1}{2}$$

加  $1\frac{1}{2}$

(26)  $7\frac{3}{5} \times 3\frac{3}{19}$       (27)  $12\frac{3}{4} \times 2\frac{2}{17}$

(28)  $6\frac{4}{13} \times 3\frac{5}{7}$       (29)  $7\frac{9}{12} \times 9\frac{3}{8}$

(30)  $8\frac{2}{13} \times 5\frac{7}{8}$

- (31) 長拾五間八分の五、幅九間六分の五の地積何程。
- (32) 道幅貳間貳分の一、長四拾五間三分の二の地積何程。

- (33) 一日の賃錢一圓四分の一の鐵工を、七日二分の一雇ふときは

賃錢何程。

- (34) 大工一人一日の賃錢一圓の五分の三なるとき、其大工を毎日三人宛、六日半雇ふときは賃金何程。

- (35) 月俸貳拾五圓を得る人あり、此人毎月其八分の一宛、六ヶ月間貯金するときは、貯金總額何程となるか。

- (36) 毎日の賃錢四拾五錢を得る職工あり。今其三十分の一宛貯ふるときは、四拾貳日間に何程を貯ふるか。

- (37) 一日一人の食米を四合二分の

一宛とすれば、四人宛拾八日間の食米何程。

### 第八課 分數除法

第一例題

(整數を分數にて除する場合)

$$155 \div \frac{5}{7} = 21$$

$$155 \div \frac{5}{7} = \frac{155}{1} \times \frac{7}{5} = 217 \quad \text{答} \quad 217$$

(1)  $256 \div \frac{14}{15}$       (2)  $378 \div \frac{12}{13}$

(3)  $156 \div \frac{14}{27}$       (4)  $224 \div \frac{18}{23}$

- (5) 金貳拾錢にて酢を買ひしに、徳利の七分の五の所まで入りたり。此徳利を充たさんには酢の

代金何程。

(6) 桑園の十三分の七に桑苗四百參拾四本を植へたり。此割にて全園に植ゆるときは何程となるか。

(7) 或農家にて全耕地の二十五分の十七より米五拾壹俵の収穫ありたり。全耕地には何程となるか。

(8) ガンヂス河は河口より全長の三十一分の十六の所まで船を通ず。而して此航路八百湮なりと云ふ。全長何程。

(9) 富士山の高さは壹万貳千參百

尺なるが、エベレスト山の高さの四十五分の十九に當る。エベレスト山の高さ何程。

第二例題

(整數を混分數にて除する

場合)

$$427 \div 2\frac{4}{5} = 152\frac{1}{2}$$

$$427 \div 2\frac{4}{5} = 427 \div \frac{14}{5} = 427 \times \frac{5}{14} = \frac{305}{2} =$$

$$152\frac{1}{2} \quad \text{答}$$

$$152\frac{1}{2}$$

(10)  $414 \div 3\frac{3}{5}$

(11)  $216 \div 3\frac{5}{17}$

(12)  $336 \div 3\frac{5}{7}$

(13) 一疋は貳百六拾六又三分の二

に當る體重八貫六百目のものは何疋に當るか。

(14) 一匁は三瓦四分の三に當る。七拾五瓦は何疋に當るか。

(15) 通常一噸は我二百六拾八貫五分の四に換算す。重量八百四十貫目の物は何噸に當るか。

(16) 縣下三ヶ國の一戸平均人員と總人口左の如し。各戸數を算出せよ。

國名	一戸平均人口	總人口
筑前	五人五分の四	六十四万一千人
筑後	五人五分の四	五十二万三千人
豊前	五人五分の三	三十万二千人

第三例題

(分數を分數にて除する場合)

$$\frac{5}{7} \div \frac{4}{15} = \frac{219}{28}$$

$$\frac{5}{7} \div \frac{4}{15} = \frac{5}{7} \times \frac{15}{4} = \frac{75}{28} = \frac{219}{28} \quad \text{答} \quad \frac{19}{28}$$

(17)  $\frac{27}{38} \div \frac{12}{19} \quad (18) \frac{13}{32} \div \frac{11}{42}$

(19)  $\frac{17}{42} \div \frac{34}{51} \quad (20) \frac{11}{42} \div \frac{22}{39}$

(21)  $\frac{11}{36} \div \frac{44}{65} \quad (22) \frac{34}{75} \div \frac{8}{15}$

第四例題

(混分數を分數にて除する場合)

$$5\frac{2}{3} \div \frac{54}{12}$$

$$5\frac{2}{3} + 5\frac{17}{21} = \frac{17}{3} + 5\frac{17}{21} = \frac{17}{3} \times \frac{12}{12} + \frac{17}{5} = \frac{68}{5} = 13\frac{3}{5}$$

答  $6\frac{3}{5}$

(23)  $6\frac{3}{5} + \frac{14}{15}$

(24)  $12\frac{2}{3} + \frac{19}{39}$

(25)  $7\frac{3}{8} + \frac{5}{32}$

(26)  $11\frac{5}{7} + \frac{41}{49}$

(27)  $15\frac{3}{5} + \frac{13}{40}$

(28)  $17\frac{5}{7} + \frac{11}{42}$

(29)  $11\frac{4}{7} + \frac{4}{105}$

(30)  $16\frac{5}{9} + \frac{11}{36}$

第五例題

(混分數を混分數にて除する場合)

$$6\frac{3}{5} \div 2\frac{4}{7}$$

$$6\frac{3}{5} \div 2\frac{4}{7} = \frac{33}{5} \div \frac{18}{7} = \frac{33}{5} \times \frac{7}{18} = \frac{77}{30} = 2\frac{17}{30}$$

答  $2\frac{17}{30}$

(31)  $8\frac{4}{5} \div 2\frac{3}{4}$

(32)  $9\frac{2}{7} \div 2\frac{1}{14}$

(33)  $9\frac{3}{8} \div 3\frac{4}{7}$

(34)  $15\frac{7}{5} \div 1\frac{2}{5}$

(35)  $12\frac{7}{3} \div 7\frac{5}{9}$

(36)  $12\frac{2}{3} \div 7\frac{5}{6}$

(37)  $10\frac{7}{3} \div 11\frac{3}{4}$

(38) 二ヶ月五分の三に、薪三駄二分の一を費すときは、一ヶ月平均何程に當るか。

(39) 薪五百貳拾五斤七分の五を賣りて七圓貳拾五分の九を得る



- (40) ときは、一斤の價何程。  
 一哩は拾六町十分の九に當る。  
 五里十五町五分の三は何裡に當るか。
- (41) 一哩は拾四町四分の三に當る。  
 四里拾貳町五分の二は何裡となるか。
- (42) 一オンスは七匁二分の一に當る。  
 一貫貳百四十匁四分の三は何オンスに當るか。
- (43) 品質全國一の赤穂鹽には、にがりの量至て少なく、全量の五百分の十九なり。百八十五匁五分の三のにがりは、何程の鹽の内

- 含まるか。
- (44) 三田尻の鹽には全量の五百分の三十二のにがりを含む。百八十五匁五分の三のにがりは、何程の食鹽中に含まるか。
- (45) 日本大豆の六十七分の四十二は蛋白質なり。八十七匁五分の三の蛋白質は、大豆何程の内に含まるか。

### 第九課 繁分數

例題

$$2 \div \frac{2}{3} = \frac{2}{\frac{2}{3}} = \frac{2}{2} \times \frac{3}{1} = \frac{3}{1} = 3$$

$$\frac{2}{3} \div \frac{4}{4} = \frac{\frac{2}{3}}{\frac{4}{4}} = \frac{2}{3} \times \frac{4}{4} = \frac{2}{3}$$

$$\frac{5}{8} = \frac{5}{5} \times \frac{15}{16} = \frac{1}{8} \times \frac{16}{15} = \frac{2}{3} \quad \text{答 } \frac{2}{3}$$

次の分數を簡單にせよ。

$$(1) \frac{5}{18} = \frac{13}{20} = \frac{27}{27}$$

$$(2) \frac{13}{35} = \frac{39}{70}$$

$$(3) \frac{17}{40} = \frac{34}{45} = \frac{13}{25} = \frac{42}{125}$$

$$(4) \frac{25}{42} = \frac{45}{64} = \frac{9}{32}$$

$$(5) \frac{12}{49} = \frac{7}{60} = \frac{2}{3} = \frac{4}{5}$$

$$(6) \frac{64}{9} = \frac{4}{5} = \frac{3 \times 2}{4}$$

$$(7) \frac{3}{3} = \frac{1}{2}$$

$$(8) \frac{3}{3} = \frac{5}{4}$$

$$(9) \frac{1}{2} = \frac{1}{1} = \frac{1}{4}$$

$$(10) \frac{1}{5} = \frac{2}{3} = \frac{2}{5} \times \frac{3}{4}$$

(11) 所持金の五分の一にて傘を買ひ、四分の一にて反物を買へり。然るに傘と反物との代を合すれば四圓五十錢となる。始めの所持金何程。

(12) 所持金の五分の二にて絹を買ひ、四分の一にて木綿を買へり。然るに絹は木綿より壹圓五十錢高かすと云ふ。始めの所持金何程。

### 第十課 雜題

- (1) 三學年の理科書は紙數七十ページにて、價貳拾四錢なり、一年に四十週課業を受くることとし、毎週二度宛習ふときは、一度に何枚宛となるか。又其代は何程に當るか。
- (2) 鯉節を買ひ入れ、毎日共十三分の二宛五日間使ひし爲め、残り十五匁となりたり。始めは何匁の節なりしか。
- (3) 或人所持金の二十分の七にて傘を買ひ、五分の三にて帽子を買ひしに、殘金五錢となりたり。

始めの所持金何程。

- (4) 或人所持金五圓五拾錢の五分の二にて傘を買ひ、傘の代の四分の三にて帽子を買ひたり。傘と帽子との代金各何程。
- (5) 兄弟各半紙を所持せり。弟は三十枚にして兄の三分の二に當る。各何枚宛なるか。
- (6) 半紙八拾五枚を兄弟に分つとき、弟は兄の十分の七に等しくせんとす。各何程。
- (7) 田の草採りをなすに、男なれば五日を要し、女ならば八日を要す。男女共に働くときは、何日間

にて終るか。

- (8) 大豆の手入れをするに、男ならば七日を要し、女ならば十日を要す。若し男一人と女二人とが、共に働かば何日間にて終るか。
- (9) 或商品を參拾五圓六拾錢にて買ひ入れ、其二十分の三だけ高く賣るときは、何程となるか。
- (10) 或商品を賣りて、元價の五十分の三だけ損せしを以て、賣價は貳拾參圓五拾錢となれり。元價は何程なりしか。

(11) 寒暖計

(イ) 攝氏三十七度を華氏に改め

よ。

(ロ) 華氏九十度を攝氏に改めよ。

(ハ) 本日は華氏 度なり、攝氏に改めよ。

(12) 槓杆

(イ)  $\frac{\text{力點}}{\text{支點}} = \frac{\text{支點}}{\text{重點}}$  全長を壹丈四尺

とし、支點、力點の距離を全長の七分の五とすれば、支點、重點の距離何程。

(ロ)  $\frac{\text{支點}}{\text{重點}} = \frac{\text{支點}}{\text{力點}}$  支點、重點の距離

九尺にして、全長の七分の三に當るときは、全長及重點、力點の距離各何程。

(ハ) 動滑車一つを用ゐるときは

二分の一の力を省く、二つを連続して用ぬるときは何程の力を省くか。

(二) 動滑車二つを用ぬても尙ほ七十五斤の力を要す。若し一つも滑車を用ぬざるときは、何程の力を要するか。

(13) 瀛車

(イ) 一哩は拾四町四分の三なり。何間なるか。

(ロ) 一鎖チエインは大約拾壹間三十分の十九に當る。四拾鎖は何程となるか。

(ハ) 門司より博多まで、四十七哩

八十分の三十一に要する時間間は貳時14分15なり。一時間の速力何程に當るか。

(ニ) 行橋を午前七時四十六分に發車すれば、全九時四十三分に宇佐驛に着す。而して此兩驛間の哩數は貳拾七哩八十分の六十三なり。一時間の速力何程。

(14) 平壤の戰

(イ) 日本軍

混成旅團

四、四四二人

朔寧枝隊

一、三三七

元山枝隊

二、六五二

本隊

三、五二六

總計

清國軍

盛字軍

六、〇〇〇人

毅字軍

二、〇〇〇

奉軍

三、五〇〇

本隊

一、六〇〇

牙山の敗兵

一、二〇〇

總計

問 日本軍の一人が清國軍

の何人に當る割となるか

(ロ) 我軍の戰勝分捕品

金塊

價格 一、二三四五九圓

銀塊

全 二、二六九七

砲銃 全 二、五八五〇  
總價格

(15) 次の數を諸等數に求めよ。

(イ) 五時  $\frac{4}{15}$  (ロ) 十五間  $\frac{3}{4}$

(ハ) 十八町  $\frac{7}{20}$  (ニ) 三里  $\frac{5}{9}$

(ホ) 六畝  $\frac{4}{15}$

(16) 貯蓄米の七分の三を食せしも、  
尙ほ壹斗六升餘れり。始めの貯  
蓄米何程。

(17) 若干の金員を銀行に預け入れ  
し後再び其預り金高の其五分  
の三預け入れたれば、總額貳拾  
四圓となれり。始め預け入れし  
金員何程。

(18) 若干の預金の内其五分の四受取りしも、尙ほ五圓残り。受取りし金員何程。

### 第十一課 正比例

- (1) 墨四挺の代金拾五錢なるときは、拾參挺の代金何程。
- (2) 木筆參本の代金拾錢貳厘なるときは、拾貳本の代金何程。
- (3) 米參升の代金四拾五錢九厘なるときは、壹斗七升の代金何程。
- (4) 筑前三等米四俵の代金拾六圓六拾錢なるときは、貳拾五俵の代金何程。

- (5) 酢壹升參合の代金拾六錢九厘なるときは、參拾五錢貳厘にて何程の酢を買ひ得るか。
- (6) 米參合にて麴五合を製するときは、麴參斗を製するには米幾何を要するか。
- (7) 茶五斤の價參圓七拾五錢なるときは、拾壹圓貳拾五錢にては何程の茶を買ひ得るか。
- (8) 大工一週間の賃錢參圓八拾五錢なるときは、二日間の賃錢何程。
- (9) 木挽一週間の賃錢四圓貳拾錢ならば、三日間の賃錢何程。

(10) 左官九日間の賃錢四圓九拾五錢ならば五日間の賃錢何程。

(11) 韓清兩國の名高き河の長さとして、石狩川との比を作れば左の如し。

石狩	6	石狩	42	石狩	3	石狩	7
鴨綠	5	大同	25	楊子	25	黄河	54

右石狩川を百六拾八里として計算せよ。

(12) 久留米耕一反の價の比

久留米	3	久留米	2
門司	4	博多	3

久留米にて一反貳圓五拾錢のものは、門司博多にては各何程となるか。

(13) 博多織の直段を、博多と久留米とにて比較すれば、三十三の三十七に於けるが如し、博多にて一反の價拾參圓貳拾錢のものは、久留米にて何程となるか。

### 第十二課 反比例

(1) 人夫八人にて十四日間に落成すべき仕事を、七人にて爲さば、何日間にて終はるか。

(2) 毎日八時間宛働くときは、十八日間に落成すべき仕事を、毎日六時間宛働くときは、何日にて終ふるか。



- (3) 米三斗四升入貳拾壹俵を四斗貳升入とすれば、何俵となるか。
- (4) 二百四十人の兵卒十ヶ月に食すべき兵糧あり。今若し百二十人を減ずるときは、幾ヶ月間の兵糧となるか。
- (5) 長さ貳拾六間、幅拾五間の地あり。此れと同じ廣さにして長參拾間なるときは、幅何程。
- (6) 旅人あり。一日の旅費を平均壹圓五拾錢宛と見積り、三十八日間の旅費を所持せり。若し毎日五拾五錢宛節約するときは、何日間支へ得るか。

- (7) 農夫三人にて十日間に終ふる仕事を、二人増して働かしむるときは、何日間早く出来るか。
- (8) 博多より二日市、甘木を経て、大分縣界まで、一日の行程を六里とすれば、二日三分の一にして達す。若し五里宛とすれば、何日後れて達するか。
- (9) 門司より直方、飯塚、原田を経て、佐賀縣界まで、三日間に達せんには、一日の行程を七里三分の一宛とせざる可からず。若し三日半に到着することとせば、一日の行程を何程とすべきか。

- (10) 門司より長崎まで七時間にて到着せんには、速力十四湮の汽船に乗らざるべからず。若し九時間に達せんには、速力何程の船に乗るべきか。
- (11) 長崎より釜山浦まで、速力十二湮の船ならば、十三時二分の一にて到着す。速力十六湮のものならば、何日間早く到着するか。
- (12) 長崎より仁川まで三十二時にて行くとすれば、毎時の速力十四湮の船に乗らざるべからず。若し四日早く着せんには、毎時の速力何程の船に乗るべきか。

### 第十三課 單比例雜題

- (1) 五時間に五里七分の五行くときは、十二時間には何程行くか。
- (2) 六日間に貳町貳反七分の二の田を耕すときは、五日半には何程耕すか。
- (3) 木綿六尺三分の二の價貳拾五錢なるときは、同じ木綿四尺三分の一の價何程。
- (4) 茶三斤の價が貳圓貳拾五錢なるときは、貳斤八分の一の價何程。
- (5) 茶貳斤四分の一の價壹圓八拾錢なるときは、三斤八分の一の

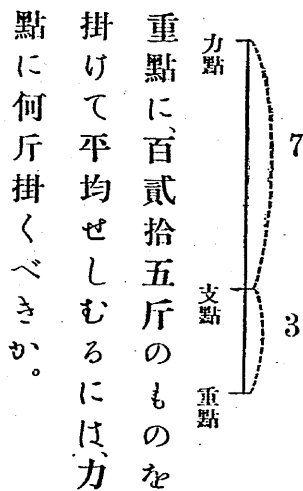
價何程。

(6) 金貳拾七錢にて黑砂糖四斤二分の一を買ひ得るときは、五斤四分の三の價何程。

(7) 金貳拾五錢にて芋參升三分の一を買ひ得るときは、四升五分の三の價何程。

(8) 槓杆

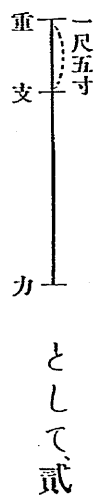
(8) 上圖の割合に於ける槓杆の



重點に、百貳拾五斤のものを掛けて平均せしむるには、力點に何斤掛くべきか。

(ロ) 前の槓杆の力點に貳拾五斤のものを掛くるときは、重點に何斤掛くれば平均するか。

(ハ) 支、重兩點の距離を壹尺五寸



支へる爲め、力點に四拾貳斤のものを掛けんとす。支力兩點の距離を何程とするか。

(9) 物影

(イ) 壹丈八尺の竿をたてじに其影貳丈四尺となれり。壹丈六尺の竿の影何程。

(ロ) 樹の高さを知らん爲め、其影

の長さを測りしに六間三尺ありたり。同時に七尺の棒の影を測りしに九尺なりしと、樹の高さ何程。

(ハ) 或家の日影が四間貳尺なるとき、參尺五寸の棒の日影が五尺五寸なれば、此家の高さ何程。

(10) 長崎上海間を速力十七哩の漚船なれば貳拾八時間にて到着す。今若し四時間を増さば速力何程とすべきか。

(11) 長崎、香港間千五百九十哩は、通常九十六時にて到着す。此割合

にて、淡水、福州間百參拾七哩を航するときは、何時間を要するか。

(12) 長崎より浦鹽斯德までは、吉野艦が貳拾貳哩の速力にて行けば、參拾時間にて達す。富士艦が十八哩の速力にて行けば、何時間を要するか。

(13) 次の溫度を攝氏に改算せよ。  
明治三十二年縣下に於ける最高溫度と最低溫度

福岡市

華氏 九十五度 華氏 二十四度

柳河

全 九十八度 全 二十一度  
彦山

全 八十六度 全 十五度

(14) 甲乙二室あり、甲室には華氏の寒暖計を掛け、乙室には攝氏の寒暖計を掛けて、其溫度を檢するに、甲室は八十七度、乙室は三十度なりと云ふ。此兩室の溫度何れが高きか。但華氏の溫度にて答ふるを要す。

(15) 麥の黑穂を防ぐには、水五升に綠礬貳拾七匁の割にて溶かしたるものに、種子を浮ぶ。今水參升五合には、綠礬何程を溶すべ

きか。

(16) 稻の鹽水撰をなすには、水五合に鹽六十六匁を溶す。水壹斗貳升には鹽何匁溶すべきか。

(17) 豊前俵と筑前俵との比は、二十一と十七なり。豊前俵百貳俵を筑前俵に直せば、何俵増すか。

(18) 米貳升五合と、石油貳升參合と。交換するとき、石油壹升の價拾五錢五厘とすれば、米壹升の價何程。

(19) 米壹升五合と、麥參升と交換するとき、麥壹升の價七錢七厘とすれば、米壹升の價は、麥壹升の

價より、何程高きか。

- (20) 米五俵を、貳拾貳圓五拾錢の割にて、貳拾四俵買入れ、残らず賣りて九拾六圓を得たり。損益何程。

### 第十四課 複比例

#### 第一例題

大工五人七日間の賃錢拾九圓貳拾五錢なるときは、七人十一日間の賃錢何程。

$$19.25 \times \frac{11}{7} \times \frac{7}{5} = 42.35$$

答 四拾貳圓參拾五錢

- (1) 明治三十二年の調査によれば、

福岡市にて大工七人九日間の賃錢は、參拾四圓六拾五錢に當る。四人七日間の賃錢何程。

- (2) 同年久留米市にて、大工九人五日間の賃錢は貳拾圓貳拾五錢に當る。八人十一日間の賃錢何程。

- (3) 同年門司市にては、大工拾參人九日間の賃錢七拾圓貳拾錢に當る。拾五人七日間の賃錢何程。

- (4) 家族五人にて二十五日間の食米五斗を要するとき、七人十八日間の食米何程。

- (5) 家族五人にて、二十五日間麥飯

とすれば、精米參斗を要す。六人二十一日間の精米何程。

(6) 家族五人、脚氣豫防の目的にて、麥飯を食するとき、二十五日間の精麥を貳斗とすれば、七人にて十九日間の精麥何程。

(7) 明治三十二年福岡市にて、酒と醬油との價の比は、拾三と四との如し。酒五升の價壹圓七拾五錢なるときは、醬油七升の價何程。

(8) 同年久留米市にて、酒と醬油との價の比は二十二と七との如し。醬油七升の價五拾九錢五厘

なるときは、酒九升の價何程。

(9) 木炭壹俵四貫目入のもの五俵の價壹圓六拾錢なるときは、一俵五貫目入七俵の代金何程。

(10) 木炭壹俵參拾斤入のもの四俵の價壹圓五拾參錢六厘なるときは、貳拾五斤入七俵の代價何程。

(11) 一積五千斤の薪十五箇を、金拾五圓にて賣るとき、一積六千斤の薪百箇賣るときは、價何程。

(12) 四斗貳升入の豊前俵五俵の價貳拾壹圓六拾參錢なるとき、三斗四升入の筑前俵九俵の代金

何程。

(13) 參斗六升入の筑後俵三俵の價拾貳圓九拾六錢なるときは、豊前俵拾貳俵の代金は何程。

第二例題

毎日六時間宛働けば五人にて七日間に出來上ぐる仕事あり。之を毎日八時間宛働けば、六人にて何日間に出來上るか。

$$\frac{7 \times 5}{6} = \frac{4 \times 3}{8} \quad \text{答四日} \frac{3}{8}$$

(14) 工夫十二人にて毎日八時間宛働けば、十八日に出來上る仕事あり。之を九人にて毎日六時間宛働けば、何日間にて出來上る

か。

(15) 一工事あり。人夫九人にて十二日間に落成せしめんとするに、毎日六時間働かざるべからず。今之れを三人にて二十七日間に落成せしめんに、毎日何時間宛働くべきか。

(16) 一人一日の飯米を四合と見積り、八人六日間の飯米あり。之れを四合貳勺として五人にて食ふときは、何日間を支ふべきか。  
(17) 毎日八人の飯米を四升とし、九日間の飯米あり。之れを毎日六人にて貳升七合の割とすれば、



何日間支ふべきか。

(18) 男女の人夫あり。其力の比は七と四との如し。女十五人にて五日間に成功する仕事を、男七人にてなすときは、何日を要するか。

(19) 馬車の速力と人力車の速力との比を五と三との如くし、馬車が毎日五時間宛行き、三日間に到着すべき所まで、人力車にて毎日六時間宛行くとときは、何日間にて達するか。

(20) 荷物を運搬するに、十三人にて毎日六回宛運べば、七日に終る。

之れを八人にて毎日九回宛運べば、幾日を要するか。

(21) 荷物を運ぶに、馬車と車力との一車の積載量を七と三との如くし、馬車にて毎日六回宛運べば、五日間に終る仕事あり。之れを車力にて毎日四回宛運べば、何日間に終はるか。

(22) 石橋を架くるに、拾五人の石工毎日八時間宛働くときは、十四日に落成すべし。今是れを毎日十時間宛働きて、十日間に落成せんには、尙石工何人を増すべきか。

(23) 川堤を新築するに、貳拾五人の人夫毎日八時間宛働きて十八日に成就すべきものを、毎日六時間宛働きて十二日間に成就するには、尚ほ何人を増すべきか。

第三例題

六人の工夫が八日間働きて、拾九圓貳拾錢の賃金を得るときは、拾人の工夫が參拾六圓の賃金を得るには、何日間働くべきか。

$$8 \times \frac{36}{19.2} \times \frac{6}{10} = 9 \quad \text{答九月}$$

(24) 七人の大工が、五日間に拾九圓貳拾五錢の賃金を得るとき、九人の大工が參拾四圓六拾五錢

を得んには、何日間働くべきか。

(25) 貳人にて八反四畝の田を耕すには、七日を要す。此割合にて、壹町貳反六畝の田を五日間に耕すには、毎日何人を要するか。

(26) 壹町貳反の麥田の手入をなすには、三人にて五日間を要す。此割合にて四日間に九反六畝の手入れをなさんには、毎日何人とすべきか。

(27) 道路の修繕をなすに、拾四人の人夫が七日間働くときは、貳百四十五間を仕上ぐ。此割合にて千五百六十間を貳拾四人の人

夫が修繕するときは何日間を要するか。

(28) 板橋の修繕をなすに、大工六人毎日六時間宛働けば四日間に拾八間の修繕を終ふ。此割合にて八人の大工が毎日八時間宛働きて拾六間の修繕をなすには、何日を要するか。

(29) 工夫二十六人にて、七日間に九拾壹反の木綿を織る。此割合にて木綿九十反を三十六人の工女が何日間に織り上るか。

(30) 工女繭を績ぐに、十五人にて六日間に四石五斗を終る。此割合

にて拾貳人の工女が三石六斗の繭を績ぐには、何日を要するか。

### 第十五課

### 比例

#### 第一例題

二人の職工あり、甲十五日の賃錢と、乙七日の賃錢とを合するときは八圓八拾錢となる。各日數に應じ配分すれば何程となるか。

$$15+7=22$$

$$8.80 \times \frac{15}{22} = 600 \text{ 甲 六圓}$$

$$8.80 \times \frac{7}{22} = 280 \text{ 乙 貳圓八拾錢}$$

- (1) 三人の職工あり。甲七日の賃錢と、乙九日の賃錢と、丙六日の賃錢とを合すれば、八圓八拾錢となる。各日數に應じ配分せよ。
- (2) 判任十級俸(拾五圓)のもの、と九級俸(貳拾圓)のものとの二人にて壹圓五拾錢の出金をなすべき事あり。月俸の多寡に應じ出金すれば、各何程。
- (3) 判任八級俸(貳拾五圓)のもの、と七級俸(參拾圓)のもの、と六級俸(參拾五圓)のものとの三人にて、參圓六拾錢の出金を、月給の多寡により出金するときは、各何程。

程。

- (4) 兄弟三人にて、資本金を出し合せ、商業をなせしに、總利益拾貳圓五拾錢を得たり。之れを長男百貳拾圓、次男八十圓、三男五拾圓の出金高に應じて配分するときは、各所得何程。
- (5) 兄弟三人にて、商業をなせしに、拾參圓八拾錢を損失せり。之れを出金高、長男五拾五圓、次男三十五圓、三男二十五圓に應じて償ふときは、各何程。
- (6) 兄弟三人にて、書籍を注文せしに、其郵便税貳拾錢となれり。然

るに長男の書籍は百二十五匁、次男は百匁、三男は七十五匁なり。重量の多寡により出金するときは、各何程。

(7) 兄弟三人にて書籍を注文せしに、郵税拾四錢七厘を要す。之れを代價の高廉により出金せんとするに、長男の書籍は五拾貳圓、次男は參拾四錢、三男は拾貳錢なり。各出金何程。

(8) 甲、乙、丙三戸用の爲めに井戸を掘りしに、其費用參拾五圓を要したり。之れを家族の人員に應じて出金せんとするに、甲には

八人、乙には七人、丙には五人あり。各戸何程宛の出金となるか。

(9) 甲、乙、丙三戸用の汚水路を修覆するに、其費用五圓參拾五錢を要す。之れを家族の多少により出金せんとするに、甲には五人、乙には八人、丙には七人なり。各出金何程。

第二例題

金參拾六圓を、甲乙二人に配分せんとするに、其割合を五と四との如くす。各所得何程宛となるか。

$$5+4=9$$

$$36 \times \frac{5}{9} = 20$$

$$36 \times \frac{4}{9} = 16$$

答 甲 二十圓  
乙 十六圓

(10) 金四拾八圓を甲、乙、丙三人に五、四、三の如く分配すれば、各何程宛となるか。

(11) 窒素と酸素とは、空氣の主なる成分なるが、其容積の割合は七十九と二十一との如し。今四斗五升の空氣中には、各何程宛含まれ居るか。

(12) 過酸化マンガン八十七々の内には、マンガン五十五々、酸素三十二々を含有せり。百八十々の

内には、各何程宛含有せるか。

(14) アムモニヤは、窒素十四と、水素三とを含有す。アムモニヤ百二十拾一々中には、各何程宛を含むか。

(15) 硝酸は、水素一、窒素十四、酸素四十八の割合にて、化合したるものなり。今六百貳拾四々の硝酸には、各何程宛含有するか。

(16) 門司よりポートセットまでの汽船賃一等、二等、三等の割合二十六、十八、十一の如し。一等の賃錢參百九拾圓なるときは、二等、三等は各何程。

(17) 豆腐の成分は、水九五、五蛋白質

三、脂肪貳、壹灰分〇、四なり。百五拾壹々五分の内には、各幾何量を含むか。

(18) 乳汁の成分は、水八六、蛋白質四、

脂肪三、灰分〇、七なり。今乳汁八十四々四二の内には、各幾何を含むか。

(19) 玄米を白米とするとき、白米と

碎米と糠との割合、九一と一、七と七との如くなれば、白米壹石參斗六升五合には、碎米、糠、各何程出来るか。

(20) 玄米の成分は、水分一三、三、灰分

〇、九、蛋白質八、六、纖維質一、三、澱粉質七、二、九、脂肪二なり。今玄米貳貫參百七拾六々中には、各何程宛を含むか。

### 第十六課 歩合算

用語比較

(歩合算) (小數) (分數)

一割 一分 十分ノ一

一步(分) 一厘 百分ノ一

一厘 一毛 千分ノ一

歩は時として、朱と云ふことあり。

#### 第一例題

金百貳拾五圓の一割五歩は何程。

$$125 \times 0.15 = 18.75$$

答 拾八圓七拾五錢

$$\text{元高} \times \text{歩合} = \text{歩合高}$$

- (1) 資本金五拾七圓に對し、一割五歩の利益とは、何程のことか。
- (2) 資本金六拾五圓に對し、六歩の損失とは何程のことか。
- (3) 玄米搗き減りを左の割合として計算せよ。

糠 八分五厘

碎米 壹分參厘

玄米五斗六升より出来る糠。

筑前俵貳俵を白米とするとき  
碎米。

豊前俵參俵を白米とするとき  
碎米と糠。

(4) 碎米の割合

布哇米 貳分

日本米 五分

印度米 貳割

玄米貳石八斗五升

此れが布哇米ならば何程の碎  
となるか。  
此れが日本米ならば何程の碎  
となるか。

(5) 筑後俵貳俵を八圓六拾四錢に



て買ひ入れ、壹割貳分の搗き減りとし、白米壹升を拾四錢五厘宛にて賣り拂ふときは、利益金何程。

第二例題

壹反の久留米耕を賣るに、元價より壹割五分高くすれば、參拾七錢五厘の利益となる。其元價何程。

$$0.375 + 0.15 = 0.5 \quad \text{答貳圓五拾錢}$$

$$\text{歩合高} + \text{歩合} = \text{元高}$$

- (1) 博多織貳反を仕入れ、壹割五分高く賣りて、參圓の利益を得たり。一反の元價何程。

- (7) 小作人が收穫高の六割貳分を地主に納むるとき、參拾壹俵の納米となる。收穫高何程。

- (8) 小作人が、收穫高の六割を地主に納むるとすれば、五反歩の納米四石貳斗となる。一反歩の收穫高何程。

- (9) 小作人が六反歩を耕してその收穫高の七割を納米とすれば、残り貳石七斗九升となる。一反の收穫高何程。

- (10) 地租は地價の貳分の五厘なり。拾參圓貳拾錢の地租を納むるものは、何程の地價を有するか。

(11) 貳拾貳圓九拾錢の地租を納むるものは、何程の地價を有するか。

第三例題

資本金百五拾圓にて商業をなし、貳拾貳圓五拾錢の利益あるときは、其歩合何程に當るか。

$$22.5 \div 150 = 0.15 \quad \text{答 一割五分}$$

$$\text{歩合} \times \text{元} = \text{歩合}$$

(12) 拾參圓五拾錢にて買ひ入れたるものを賣りて、貳圓四拾參錢の利益ありとすれば、其歩合何程に當るか。

(13) 在席五拾八人の學級に、拾參人

の遅刻と、六人の欠席者ありとすれば、遅刻者の歩合と欠席者の歩合とは、各何程に當るか。

(14) 在席五百六拾七人の學校にて、落第者參拾五人、退校者拾參人あるときは、各歩合何程なるか。

(15) 五百七拾六人の入學志願者に對し、貳百參拾貳人の合格者ありとすれば、其歩合何程。

第四例題

貳圓五拾錢にて買ひ入れたるものに、壹割四分の利を加へて賣るとすれば、賣價何程。

$$2.5 \times (1 + 0.14) = 2.85$$

答 貳圓八拾五錢

$$\text{元高} \times (1 + \text{歩合}) = \text{合計高}$$

- (16) 反物一反六圓貳拾錢にて買ひ入れたるものを、貳割五分高く賣るときは、直段何程。
- (17) 米六斗を八圓四拾錢にて買ひ入れ、壹割貳分の利を加へて賣るとすれば、壹升の賣値何程。
- (18) 麥五斗を四圓貳拾五錢にて買ひ入れ、貳割の利を加へて賣るときは、壹升の直段何程。
- (19) 緋一反を參圓六拾錢にて買ひ入れ、壹割八分の利を加へて賣るときは、壹尺の直段何程。

但一反を二丈八尺とす。

- (20) 緋二丈四尺を貳圓五拾錢にて買ひ入れ、之れに壹割六分の利を加へて賣るとき、五尺の代金何程。

第五例題

或資本金にて商業をなし、壹割五分の益ありたるを以て、元利合計百七拾貳圓五拾錢となれり、資本金何程なりしか。

$$172.5 \div (1 + 0.15) = 150$$

答 百五拾圓

$$\text{合計高} \div (1 + \text{歩合}) = \text{元高}$$

- (21) 或商品に壹割八歩の利を得て

拾七圓七拾錢となる。元價何程に當るか。

(22) 或學校にて三月末の生徒に對し貳割の入學生徒ありし爲め、現員五百四拾名となれり。三月末は何名なりしか。

(23) 某生徒の身長は四月に検査せしときより、十月の検査のときは、千分の十八だけ(壹分八厘)成長せるを以て、四尺五寸八分壹厘となれり。四月には何程なりしか。

(24) 米價一割五分高くなりて、壹升の價拾六錢壹厘に當る。高値とな

らざる前、貳升五合の代金何程。  
(25) 家族増せし爲め、毎日の飯米に貳割四分を加へて參升壹合とす。家族増員前一週間の飯米は何程なりしか。

## 第十七課 總練習

(1) 經緯度

(イ) 赤道にては經度一度間が貳拾八里に當る。地球の週り何程。

(ロ) 緯度一度間、地球上何處にても貳拾八里なり。東京は北緯三十五度四十一分に當る。

赤道より何里の處にあるか。

(ハ) 四國嶋の面積は千百五十一  
方里なるが、赤道近傍に於け  
る経緯度各一度間の面積と、  
何程の差あるか。

(2) 歐洲航路

(イ) 横濱を土曜日午後三時に拔  
錨すれば、翌週水曜の午後に  
香港に着き、新嘉坡には木曜  
の午前十時に到着す。各何日  
何時間を要するか。

(ロ) 横濱より新嘉坡まで貳千九  
百貳哩なり。前題の日數より  
計算して、平均一晝夜の行程

を見出せ。

(ハ) 横濱より香港までの船賃一  
等、二等、三等の比は25と15と  
6との如し。三等の船賃拾八  
圓なれば、一等、二等の船賃各  
何程。

(ニ) 横濱よりポートセッドまで  
八千四百十三哩なり。前題に  
於ける平均一晝夜の航程よ  
り計算して、大約何日間か、  
るかを見出せ。

(ホ) 千八百九十七年蘇士運河通  
過船の噸數は、千百拾貳万參  
千四百參噸にして、其五分の

四は英國船なりと、同國の通過噸數何程。

(へ) 郵便會社歐洲航路の終點ベルギー國アントワープ港まで、横濱を距ること壹万貳千貳百貳拾七哩航海日數凡そ七十日なり。平均一時間の速力何程。

(3) 百分比例

(イ) 甲學級は五十七人の内四人落第し、乙學級は四十五人の内五人落第したり。何れの學級が百分比例に於て何程多きか。

- (ロ) 甲村には入學すべき兒童百四十人の内百二十人入學し、乙村は八十五人の内七十五人入學したり。然らば百分比例に於て何れが何程多きか。
- (ハ) 5%の硫酸百貳拾々の内には水を何程含むか。
- (ニ) 7%の硝酸貳百四拾々の内には、純硝酸を何程含むか。
- 毎日賃錢を五拾錢を得て其壹割五分を貯ふれば、三週間貯に金何程となるか。
- (5) 兄弟の職工あり、兄は毎日四拾錢を得て其二割五分を貯ふる

ときは、拾五日間に兄弟の貯金  
合せて何程。

(6) 月給貳拾五圓の人が、毎月食費  
に五分の三、雜費に四分の一を  
費すときは、殘金何程。

(7) 一斤の價拾貳錢の砂糖八斤半  
を買ひ、其代金の五分の四丈け  
は、一外六錢五厘の麥にて拂ひ、  
其餘は現金拂ひとす。麥及現金  
何程。

(8) 蜜柑百六拾個を仕入れ、其八分  
の三は、壹個を壹錢貳厘宛にて  
賣り、四分の一は八厘宛にて賣  
り、殘りの分は七厘宛にて賣り

拂へり。總賣揚高何程。

(9) 壹圓四拾錢にて柑類を仕入れ、  
其七分の四は壹割貳分を利し、  
七分の二は壹割參分を利し、其  
餘は壹割を利して賣りたり。總  
利益金何程。

(10) 筆と墨との代金を合すれば、拾  
參錢貳厘となる。而して筆の代  
は墨代の八分の三に當る。各價  
何程。

(11) 甲乙丙三人の所持金の和は七  
拾貳圓にして、乙は丙の二倍、甲  
は丙の三倍なり。各何程。

(12) 日給四拾五錢の職工が、拾八日

間に賃金六圓七拾五錢を得たり。然らば此職工何日間休みたるか。

(13) 甲は日給四拾錢、乙は參拾錢なり。今甲乙共に働くこと三週間なれば、各所得金の差何程。

(14) 陶器百貳拾個に付き拾五錢宛にて仕入れ、其運送中十五分の四丈りは破損せり。而して其餘を貳割高く賣ることゝするときは損益如何。

(15) 雞卵一個を壹錢六厘宛にて百貳拾個買ひ入れ、其十五分の二腐敗せしより、残りを賣りて損失を償はんとす。何割高く賣るべきか。

(16) 月給貳拾五圓の人が、三年に百八圓の貯金を爲さんには、毎月々給の何割宛を貯ふべきか。

(17) 甲の日給は五拾錢にして、乙の日給は四拾五錢なり。甲は毎日壹割を貯へ、乙は九分の一を貯ふるときは、三週間にて貯金の差何程。

(18) 木綿七反と、紬五反と、絹三反と價相等し。今絹一反の價を七圓とすれば、木綿と紬各一反の價何程。



(19) 木綿と絹との價の比を七と四との如くし。絹貳丈壹尺を買ふ代りに、木綿壹丈五尺を買ふときは、代金何程安くなるか。但、木綿壹尺の價を六錢四厘とす。

(20) 兄弟二人に紙を與ふるとき、兄には七分の四を與へ、弟には其残りを與へしに、兄より五枚少くなりたり、各何程。

金錢出納簿の一例

月 日	入 金		出 金	
	請 要 金 額	月 額	請 要 金 額	月 額
一月五日	父ヨリ	二二五〇		
一月七日			帽子	六五〇

一月八日	全日		半紙	三五
一月十日	御使賃	八〇		四〇
一月十一日			授業料	二五〇
一月十八日	筆工料	二四〇		
一月二十日			切手	三〇
一月二十二日	兄ヨリ	三〇〇		
一月二十五日			靴修理	一五〇
一月二十七日	全日		遠足會費	一三〇
一月三十一日			手拭	五〇
			端書	一五
合 計		一八七〇		一三五〇
繰越				五二〇

小學算術書卷三 兒童終用

答記入の部

卷三 答記入の部

135.4

明治三十六年十一月廿二日印刷  
明治三十六年十一月廿五日發行  
明治三十七年三月十三日訂正再版印刷  
明治三十七年三月十八日訂正再版發行

小學算術書高等算術兒童用  
定價 卷一、二各金拾錢  
卷三、四各金拾貳錢

不許複製

著作

發行

發行

發行

印刷

印刷

福岡縣教育會

辻本卯藏

福岡市博多中島町九番地

眞海徳三郎

福岡縣筑紫郡三宅村大字和田壺番地

森岡榮

福岡市博多中島町七十二番地ノ一

大西鍊三郎

東京市麹町區石樂町三丁目一番地

三協合資會社

東京市京橋區弓町二十四番地

福岡市博多中島町

積善館支店

福岡市博多糞屋町

眞海書店

福岡市博多中島町

博文社

13  
195

135.4

明治三十六年十一月廿二日印刷  
明治三十六年十一月廿五日發行  
明治三十七年三月十三日訂正再版印刷  
明治三十七年三月十八日訂正再版發行

小學算術書高等科兒童用  
定價 卷一、二各金拾錢  
卷三、四各金拾錢

不許複製

著作者

福岡縣教育會

發行者

辻本卯藏

發行者

眞海徳三郎

發行者

森岡榮

印刷者

大西徳三郎

印刷所

三協合資會社  
東京市麹町區有樂町三丁目一番地  
東京市京橋區町二丁目番地

發行所

福岡市博多中島町  
積善館支店

發行所

福岡市博多桃屋町  
眞海書店

發行所

福岡市博多中島町  
博文社

13  
195

